

# PRsj

PUBLIC RELATIONS  
SOCIETY OF JAPAN

# NEWS

2012年5月  
NO. 230

TOPICS

## 「2012年度のPR協会活動に期待する」

(社)日本パブリックリレーションズ協会 副理事長 山田 悦朗  
MESSAGE P3

## 「公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

第1回通常総会 開催のご案内とお願い」

ATTENTION P4

## 「広報PRアカデミー2012

広報・PRプロジェクト最新事例セミナー 開催迫る」

ATTENTION P5

## 「広報PRアカデミー2012

広報担当者のためのソーシャルメディア実践講座 開催」

ATTENTION P6

## 「広報PRアカデミー2012

PRプランナー3次試験対応講座を開講」

ATTENTION P7

## 「第11回PRプランナー資格認定検定試験

1次試験受験予約申込は6月1日(金)から！」

ATTENTION P8

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー  
5F 電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F  
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:森 健

# 5月号 目次

5月～6月のスケジュール	-----	1
MESSAGE(メッセージ)	「2012年度のPR協会活動に期待する」	----- 3
ATTENTION(お知らせ)	「公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会 第1回通常総会開催のご案内とお願い」	----- 4
"	「広報PRアカデミー2012 広報・PRプロジェクト最新事例セミナー 開催迫る」	----- 5
"	「広報PRアカデミー2012 広報担当者のためのソーシャルメディア実践講座 開催」	----- 6
"	「広報PRアカデミー2012 PRプランナー3次試験対応講座を開講」	----- 7
"	「第11回PRプランナー資格認定検定試験 1次試験受験予約申込は6月1日から！」	----- 8
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2012 広報・PR基礎講座を開講」	----- 9
"	「第9回PRプランナー資格認定検定試験 96名のPRプランナーが誕生し、累計1,202名に！」	----- 10
"	「第5回広報活動研究会 京王電鉄訪問及び井の頭線富士見ヶ丘車両基地 訪問見学研修」	----- 12
"	「2011年度PR業カンファレンス 開催報告」	----- 14
"	「第20回PRスキル研究会 開催報告」	----- 14
REPORT(講演レポート)	「第138回定例研究会開催報告」	----- 15
PR TREND(PRトレンド(国内))	「ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング2012年3月度」	----- 16
PR TREND(PRトレンド(関西))	「関西の風:大阪に誕生する知的創造拠点」	----- 17
COLUMN(コラム)	「外務省が開催「東日本大震災とメディアの役割 - 内外メディアの視点」	----- 18
BOOKS		----- 21
PLAZA(会員便り)	「電通ソーシャルメディアラボがスティーブン・D・ラバポート著の「リスン・ファースト」を翻訳・監修」	----- 22
"	「KPR & ASSOCIATES、INC.が韓国の大学生の間で一番人気のPR企業に選ばれた」	----- 24
PR SJ in Media	「協会掲載記事」	----- 25
掲示板	「マーケティング・テクノロジーフェア2012 in 大阪 2012年6月、待望の日本初開催」	----- 26
表4		

## 5月～6月スケジュール

第10回PRプランナー資格 検定2次試験	日時 : 5月13日(日) 10:20～ 会場 : 学習院大学 目白キャンパス 南3号館(東京) 大阪社会福祉指導センター 4F(大阪)
広報PRアカデミー2012 専門・応用コース 「広報・PRプロジェクト 最新事例セミナー」	日時 : 5月16日(水)・6月14日(木) 19:00～21:30 会場 : (株)博報堂東京本社 会議室
広報PRアカデミー2012 専門・応用コース 「ソーシャルメディア実践講座」	日時 : 5月22日(火) 19:00～21:00 会場 : 六本木アカデミーヒルズ 49「オーデトリウム」
第21回PRスキル研究会 (PR業部会)	日時 : 5月24日(木) 17:00～ 会場 : (株)オプト 会議室 講師 : (株)オプト 代表取締役CEO 鉢嶺 登氏 同 シニアコンサルタント 田村 憲孝氏 テーマ : 「マーケティング視点で見た三大ソーシャルメディアの活用法」
第140回定例研究会	日時 : 5月31日(木) 12:00～ 会場 : 六本木アカデミーヒルズ 49「カンファレンスルーム 1+2」 講師 : テレビ東京 報道局 ニュースセンター デジタル編集担当部長 鈴木 宏昭氏
企業部会フォーラム メディア研究会 (企業部会)	日時 : 6月11日(月) 18:30～ 会場 : 六本木ヒルズクラブ 講師 : 日本航空(株)(JAL) 広報部長 溝之上 正充氏 同 顧客戦略部推進グループ グループ長 浅香 浩司氏 テーマ : 「ダイレクトメディア Facebook の活用事例を JAL企業広報の先進事例に学ぶ」(仮)

## 予 告

### 通常総会開催

日時 : 2012年5月30日(水)  
通常総会 17:00～ / 懇親パーティ 19:00～  
会場 : 六本木アカデミーヒルズ 49  
通常総会 「スカイスタジオ」  
懇親パーティ 「タワーホール」

## 5月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（5月度）	日時	： 5月9日（水） 12：00～14：00
	場所	： 六本木ヒルズクラブ
組織委員会（5月度）	日時	： 5月17日（木） 14：30～16：00
	場所	： 協会会議室
国際委員会（5月度）	日時	： 5月18日（金） 12：00～14：00
	場所	： 協会会議室
教育委員会（5月度）	日時	： 5月8日（火） 17：00～18：30
	場所	： 協会会議室
広報委員会（5月度）	日時	： 5月28日（月） 17：00～18：00
	場所	： 協会会議室
出版委員会（5月度）	日時	： 5月23日（水） 17：00～19：00
	場所	： 協会会議室
顕彰委員会（5月度）	日時	： 5月16日（水） 12：00～14：00
	場所	： 協会会議室
資格制度委員会（5月度）	日時	： 5月24日（木） 12：00～14：00
	場所	： 協会会議室
PR業部会幹事会（5月度）	日時	： 5月17日（木） 16：00～18：00
	場所	： 協会会議室
IT委員会（5月度）	日時	： 5月18日（金） 17：00～18：30
	場所	： 協会会議室

## 2012 年度のPR協会活動に期待する

(公社)日本パブリックリレーションズ協会  
副理事長 山田 悦朗

2008年から本PR協会の活動をご一緒させていただいている。定例研究会やIT委員会、また企業部会の皆さんといろいろな活動する中で、今、広報の抱える課題について勉強させられたり、また新たな課題を認識したり、PR協会での活動は自分の仕事を振り返る場にもなっている。このところ考えていることをランダムに。

### ① SNS

まずPR協会のセミナーが大人気なことでおわかりのように、SNSをどうしていくか。社員が勝手な振る舞いをしてリスク案件にならないように、先行他社の事例を勉強させていただきながらとりあえずは「SNS利用規約・ガイドライン」なるものを社内関係部門と作った方がいいが、まだ広報としては本格的に利用するに至っていない。社内製品・サービスの販売推進部門や運動部などでは、マーケティング活動やファンへの情報提供手段として利用が始まっているが、まだ効果の程は聞いていない。紙の時代からWeb出現の時にも広報手法は変わったが、今回のSNSは新たな媒体かチャネルか、広報としての利用可能性に思いを巡らせている。引き続き今年予定されているPR協会の先行利用者を招いての「ソーシャルメディア実践講座」が待たれる。

### ② コミュニケーション

広報部門のミッションとしては、内外ステークホルダーに正しい情報を発信し、会社に対し正しい認識を持ってもらい、イメージアップやビジネス促進に貢献し、それによって最終的に企業価値を上げていくことであろうが、この情報の発信（コミュニケーション）がいまは単に広報部門の専科ではないこと。宣伝広告はもとより、上記のSNSあり販売促進イベントあり、ブランド活動ありCSR活動あり。社外への発信だけではなく同時に行われる社内従業員へのトップのメッセージ発信でも、紙媒体あり社長ブログあり。わが社の場合はそれぞれが別の担当部門だったりして、エクスターナル/インターナル、コーポレート/マーケティング、国内/海外、様々なコミュニケーションの同時調和をどう図っていくかが課題。これも今年の教育委員会「プロフェッショナル」「スキルアップ」シリーズの各講座に期待している。

### ③ グローバル

会社の活動が（やっとならぬ本格的に）グローバル化し始めるととたんに、自部門含めてコーポレート部門が“まるドメ”に近い会社は、海外での外部メディア対応、インターナルコミュニケーションの両方の至らなさを痛感する。海外グループ会社のマーケティングコミュニケーション活動をどうガバナンスしていくか、国内ではあふれている部門トップメッセージや事業方針の類をどう英文化してグループ外国人社員と共有していくか。広報内に英語ネイティブ社員を増やしたからといって解決する問題ではない。企業部会「広報活動研究会」での議論や国際委員会の先輩方との情報交換でそのあたり勉強できれば、と思っている。

悩みは尽きないが、一方日々新たな情報に接し、新たな出会いを経験することができる広義のPRの仕事の面白さもまた、尽きない。

## 【重 要】

### 公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 「第1回通常総会」開催のご案内とお願い

公益社団法人になって初の通常総会を5月30日（水）六本木アカデミーヒルズ49「スカイスタジオ」で開催いたします。

今回の総会議事は、第1号議案「平成23年度事業報告の件」、第2号議案「平成23年度収支決算報告並びに監査報告の件」、第3号議案「新役員選任の件」の3つの決議事項と2つの報告事項「平成24年度事業計画」及び「平成24年度予算の件」からなっております。

5月14日（月）に、法人正会員、個人正会員A及びBの皆様には「通常総会招集通知」をお送りいたしますので、ご確認いただき、ご出席いただける正会員の皆様は、当日会場の受付におきまして、ご返信いただいた出欠届を基に作成いたしました名簿と照らし合わせますので、必ず出欠届の事前ご送付をお願いいたします。

また、当日ご出席願えない場合は、同封いたしました議決権行使書にご記入の上、**平成24年5月29日（火）（必着）**までに議決権を行使してくださいようお願い申し上げます。

「通常総会招集通知」及び「議決権行使書」は平成23年度の正会員（平成24年3月31日まで会員の方々）にお送りいたします。これは「総会運営規則」第4条（議決権行使に関する基準日）「事業年度（平成23年度）の末日現在における正会員を議決権を有する正会員とする」によります。既に3月31日で退会届を提出されている皆様にもお送りいたしますので、出欠のご連絡並びにご出席願えない場合は議決権行使書をお送りくださいますようお願い申し上げます。

通常総会終了後、懇親パーティが開催されます。

懇親パーティには法人正会員及び個人正会員A・Bの会員はもとより、個人賛助会員・特別会員の皆様もご参加いただけますので、お送りいたしましたご招待状にご記入の上、郵送またはメールまたはFAXでご返信いただければ幸いに存じます。

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日 時：平成24年5月30日（水）

通常総会 17:00～ / 懇親パーティ 19:00～

場 所：六本木アカデミーヒルズ49

「スカイスタジオ」（通常総会） / 「タワーホール」（懇親パーティ）

## 広報PRアカデミー2012

## 「広報・PRプロジェクト最新事例セミナー」開催迫る

5月16日開催分を協会Webにて聴講受付中

教育委員会・顕彰委員会

先月号でもご紹介いたしました、来たる5月16日（水）と6月14日（木）の2回にわたり、「PRアワードグランプリ2011」において「グランプリ」及び4部門の「最優秀賞」を受賞したプロジェクトの概要を公開する「広報・PRプロジェクト最新事例セミナー～PRアワードグランプリ表彰企業の取り組みに学ぶ」を開催いたします。会場は、両日とも株式会社 博報堂本社 会議室（東京都港区赤坂5丁目3番1号 赤坂Bizタワー）、午後7時より開始します。

当協会会員及びPRプランナー資格取得者の聴講料は2,100円、一般は3,150円です（いずれも消費税込）。その他講座の詳細と受講申込みは以下の協会Webサイトをご参照ください。

[http://event.prsj.or.jp/event/advanced/case\\_study](http://event.prsj.or.jp/event/advanced/case_study)

優れた広報・PRプロジェクトから学ぶ貴重な機会です。皆様のふるってのご参加をお待ちしております。

## ■「広報・PRプロジェクト最新事例セミナー」プログラム

日時	会場	時刻	内 容	講演会社・団体
5月 16日 (水) 19:00 ～ 21:40	(株)博報堂 東京本社 会議室	19:00	ご挨拶/「PRアワードグランプリ2011」について	顕彰委員会
		19:10	●マーケティング・コミュニケーション部門最優秀賞 『江崎グリコ 『「アイスの実」キャンペーン2011PR活動』』	(株)電通 関西支社/ (株)電通パブリックリレーションズ 関西支社
		19:35	●ソーシャル・コミュニケーション部門最優秀賞 『被災地 石巻へ食糧配給拠点立ち上げ ～東日本大震災直後からの支援活動～』	セカンドハーベスト ジャパン
		20:00	●イノベーション部門最優秀賞 『「マーケティング 3.0=世の中と企業が価値を共創する時代」のPR発想からの統合コミュニケーションプログラム 「ヴィクトリーイレブンプログラム」』	(株)博報堂
		20:25	休憩	
		20:35	質疑応答	講演者全員
		20:50	講評と講演/最近の広報・PRトレンドと「PRアワードグランプリ2011」における表彰事例の意義(仮題)	江戸川大学 教授 日本広報学会 理事長 濱田 逸郎氏
		21:30	「PRアワード2012」の実施について	顕彰委員会
6月 14日 (木) 19:00 ～ 21:30	(株)博報堂 東京本社 会議室	19:00	ご挨拶	顕彰委員会
		19:10	●コーポレート・コミュニケーション部門最優秀賞 『宇都宮市都市ブランド戦略プロジェクト 宇都宮プライド ～100年先も誇れるまちを、みんなで～』	(株)オズマピーアール 宇都宮市ご関係者
		19:40	●PRアワード2011 グランプリ 『議会広報紙のイノベーション ～さいたま市議会「ロクマル」の挑戦～』	(株)電通パブリックリレーションズ さいたま市ご関係者
		20:10	休憩	
		20:20	質疑応答	講演者全員
		20:40	講評と講演/最近の広報・PRトレンドと「PRアワードグランプリ2011」における表彰事例の意義(仮題)	ブレーメンコンサルティング (株)代表取締役 岡本享二氏
		21:20	「PRアワード2012」の実施について	顕彰委員会

## — 広報PRアカデミー2012 —

**「広報担当者のためのソーシャルメディア実践講座」**  
**(第5回) 5月22日開催**  
 今回のテーマは  
**「～ソーシャルメディア運用のためのインナー対策～」**  
 教 育 委 員 会

近年、日本国内でソーシャルメディアが一気に浸透し、企業広報の在り方も大きく変化しようとしています。企業発の情報はマスメディアを介さなくとも、ソーシャルメディア上で情報拡散され、多くの生活者にシェアされるようになりました。公的な情報でなくとも、企業から社会に向けて発信された情報は、すぐにパブリックなものになります。それにともないソーシャルメディアを介した広聴機能の重要性も指摘されています。

いまや広報部門という専門部署だけが社会との接点を持つのではなく、企業の社員一人ひとりが、企業人としてまた生活者の一人として、様々なコミュニティを形成し、その時々に応じたコミュニケーションを行なっています。

企業を取り巻く環境変化にともない、組織全体でソーシャルメディアの運用に取り組む必要性が生じてきました。また、ソーシャルメディアの影響力が増すにつれ、ソーシャルメディアへの理解不足や誤った運用に起因するリスクも増大しています。

そこで、今回は「ソーシャルメディア運用のためのインナーコミュニケーション」と題して、ソーシャルメディアの円滑な運用に欠かせない社内教育やリスク管理、広聴体制の整備について、具体的な取り組み事例を紹介しながら討議をしてまいります。

なお、本セミナーでは、ソーシャルメディアをテーマにしたセミナーに相応しい枠組みとして、Ustream による映像配信など来場者以外の方々にも聴講いただける形態を取らせていただいております。

日 時	2012年5月22日(火) 19:00～21:00 ※開場 18:30～
会 場	六本木アアカデミーヒルズ 49F「オーデトリウム」 〒106-0032 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49F ( <a href="#">地図</a> ) ※本会場では無線LANがご利用いただけます。
パネリスト	小川 一 氏 (毎日新聞社 コンテンツ事業本部次長兼「教育と新聞」推進本部長) 関口 良幸 氏 (デル(株) 広報本部 シニアマネージャー) 豊岡 隆行 氏 (株ベネッセコーポレーション 教育事業本部 副本部長)
コーディネーター	鶴野 充茂 氏 (ビーンスター(株) 代表取締役、(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事)
受講料(税込)	一般 : 7,350 円 PRプランナー資格取得者(准・補含む) : 5,250 円 日本PR協会会員 : 5,250 円
定 員	140 名 ※定員になり次第締め切らせていただきます
申込期間	5月18日(金)14:00 まで ※定員になり次第締め切らせていただきます
そ の 他	本講座は、セミナー／イベントホームページ、トップページの Ustream 配信画面を通じて、一般への公開生放送を予定しております。

詳細・お申込みは、  
 セミナー／イベントホームページ → [専門・応用コース](#) → ソーシャルメディア実践講座  
[http://event.prsj.or.jp/event/advanced/social\\_media](http://event.prsj.or.jp/event/advanced/social_media)

## 広報PRアカデミー2012

## PRプランナー3次試験対応講座を開講

来る6月6日より六本木・アカデミーヒルズにて  
教育委員会

資格取得者1200人を超え、ますます人気の高まるPRプランナー資格制度。最難関の3次試験突破をめざす受験者の取組みを支援する「PRプランナー3次試験対応講座」を、今年も来る6月6日(水)より6週間6回にわたって六本木・アカデミーヒルズにて開講します。

本講座は、PRプランナー認定3次試験の内容となるニュースリリースの作成や広報・PR計画の立案法について6回にわたる講義と実習を通じて集中的に習得することを目的としており、3次試験の受験準備として最適です。講座では、プレスリリースの作成、マーケティング分野における広報・PR計画の企画立案、コーポレート分野における広報・PR計画の企画立案の3分野を2週にわたる講義と演習を通して履修します。昨年12月に開講した講座では40名以上の受験者が本講座を受講しており、1月下旬に実施された第9回3次試験では集中的な学習を行った多くの受講者が合格の栄冠を手にしました。



また、インターネットを活用した動画配信による遠隔地等からの履修、データのアーカイブにより時と場所を選ばない講義の再履修を可能としたライブストリーミング「Watershed (ウォータージェット)」によるWeb受講サービス(視聴期間限定)について、今回も提供いたします。

7月下旬には、第10回3次試験の実施を予定しており、受験者を主な対象として下記要領にて本講座を開講します。講座の詳細と受講申込みは以下の協会Webサイトをご参照ください。

[http://event.prsj.or.jp/event/prp/3rd\\_exam](http://event.prsj.or.jp/event/prp/3rd_exam)

## ■PRプランナー認定3次試験対応コースの概要

日程	講座テーマ	講座概要	講師	受講料	申込締切
6月6日・ 6月13日	「合格する ニュースリ リースの作 成法」	課題に基づくニュースリ リースの作成に必要な知識、ス キルを講義と演習で学ぶ	田代 順 氏 (株)ミラ・ソル/代表 取締役)	会場受講+ Watershed 視聴 日本PR協会会員 社員 31,500円 PRプランナー(准・ 補)取得者 42,000円 一般 47,250円	会場受講+ Watershed 視聴 6月1日(金) まで
6月20日・ 6月27日	「広報・PR 企画の立案 作成(マー ケティング 分野)」	マーケティング課題に基づく 広報・PR計画の企画立案に 必要な知識、スキルを講義と 演習を通じて学ぶ	赤坂幸正 氏 (株)インテグレート/ ダイレクター)	Watershed 視聴のみ 会員・PRプラン ナー・一般とも 31,500円	Watershed 視聴のみ 5月29日 (火)まで
7月4日・ 7月11日	「広報・PR 企画の立案 作成(コー ポレート分 野)」	コーポレート課題に基づく広 報・PR計画の企画立案に必 要な知識、スキルを講義と演 習を通じて学ぶ	岡本純子 氏 ((株) 電通パブリックリ レーションズ/シニア コンサルタント)		

日本PR協会会員社員の受講料は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみとなります。

# 第11回「PRプランナー資格認定検定試験」 1次試験受験予約申込は6月1日（金）から！

資格制度委員会



第11回PRプランナー資格認定検定試験1次試験（実施：8月26日（日））では、東京・大阪以外での各地域での開催希望の声に応え、第8回に引き続き北海道にて、「PRプランナー資格認定制度／検定第1次試験」を実施します。

日本PR協会が認定する「PRプランナー資格認定制度」は、広報・PRの業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は第1次から第3次にわたり、さらに面接試験を経ることにより、広報・PRに関する高い専門能力の保有を認定する「PRプランナー」資格を取得することができます。本制度は2007年より発足しすでに10回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した1,205名のPRプランナーが一般企業、PR会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、6月1日（金）からとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

## PRプランナー資格認定制度／検定第1次試験 札幌会場 実施概要

試験日	2012年8月26日（日） [東京会場、大阪会場と同日実施]
会場	北海道建設会館（札幌市中央区北4条西3-1、JR札幌駅南口から徒歩3分）
募集定員	札幌会場の最少実施人数は20名となります。 ※札幌会場での受験者が、20名に満たない場合は、受験料のご返金、もしくは東京・大阪いずれかの会場に変更となりますので、予めご了承ください。
受験応募・申込方法	資格制度ホームページで受験予約を行った上で申込書を郵送
受験予約期間	2012年6月1日（金）～2012年7月13日（金）
申込書送付期間	2012年6月4日（月）～2012年7月20日（金）＜必着＞

広報PRアカデミー2012

## 「広報・PR基礎講座」を開講 新任の広報・PR担当者など約 60 名が受講

教育委員会

去る4月13日・16日・17日、協会では本年度の「広報PRアカデミー」の皮切りとして、「広報・PR基礎講座」を3日間にわたり六本木アカデミーヒルズにて開講しました。

「広報・PR基礎講座」は、広報・PRに関する基本的な知識やスキルを、新任や新入社等によって着任された比較的業務の経験の浅い方々に習得していただくことを目的に開講する研修講座です。昨年度まで「広報PR入門講座」の名称のもとに開講していましたが、今回は講座内容を全面的に見直し3日間の「広報・PR基礎講座」として新たに企画したものです。

開講にあたっては、広報・PRの新任担当者が常識として備えるべきパブリックリレーションズの基礎理論や広報・PR計画の立案、メディアの特性や倫理や心構えなどの理解をはかるとともに、ニュースリリースの作成やメディアリレーションズなどの基本的な実務スキルを短時間で効果的に習得できるよう考慮してプログラムを作成しています。特に今年度は、著作権をはじめとして日常的な業務に不可欠な広報・PRに関連した法律知識、広報・PRの業務において今なお重要な位置を占めるインターナル・コミュニケーション（社内広報）についての講義を導入し、企業や団体等のニーズに応えました。

3日間の講座には、連日、会場を埋める60名近い受講者が参加しました。会場は熱気に溢れ、真剣な面持ちで講義に聞き入り、積極的に講師に質問を行う受講者の姿が印象的でした。

講座終了後のアンケートからは、「広報・PRについて業界の先輩、専門家の方々の考えを聞くことができ有益だった」、「基礎知識として理解しておくべき内容や実践的な技法等、広報・PRの初心者に必要な内容が網羅されていてよかった」等、受講の成果を評価する声をいただいております。広報・PRの若手実務者として、受講者の今後の活躍が多いに期待されます。



## 第9回「PRプランナー資格認定検定試験」 96名のPRプランナーが誕生し、累計1,202名に！

資格制度委員会

今年1月に実施された第9回PRプランナー資格検定3次試験の合格者96名の方が、3月に行われた書類審査を経て、PRプランナーの資格を取得されました。

ここに、長期間にわたるご奮闘に敬意と祝意を表してご氏名を公表させていただきますとともに、今後のさらなるご研鑽とご活躍を期待いたします。

### 2011年度後期(第9回) PRSJ認定PRプランナー

(50音順/敬称略)

◇個人名、所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

青木 浩一 (株電通パブリックリレーションズ)	明石 瑠美 (西村あさひ法律事務所)
網盛 美紀 (小林製薬株)	五十嵐 規裕 (株コミュニケーションデザイン)
池上 翔 (株電通パブリックリレーションズ)	内田 れんか (ソフトバンク・テクノロジー株)
江藤 将二 (まち塾コミュニティ)	江原 憲一 (株NTTデータ)
大澤 允之 (株電通)	大屋 勝海 (株セガ)
岡田 充功 (株ニチレイフーズ)	荻原 俊明 (株クオラス)
小倉 典子 (有サック・コミュニケーション)	川越 慶太 (株野村総合研究所)
川畑 麻衣子 (株ふくおかフィナンシャルグループ)	河原 有希子 (株内外切抜通信社)
小寺 志津 (ピジョン株)	後藤 章宏 (株NTTデータ)
小林 愛 (株電通北海道)	小山 裕司 (小林製薬株)
佐藤 勇一郎 (株NTTデータ)	重松 瞳 (株ジェイアール西日本コミュニケーションズ)
渋谷 和徳 (ジヤトコ株)	清水 洋克 (戸田建設株)
鈴木 由香 (学校法人工学院大学)	高橋 一教 (岩手県立大学)
高橋 沙矢香 (株NTTデータ)	種村 尚彦 (株アサツー ディ・ケイ)
津守 真紀 (シナネン株)	出張 宏明 (株電通)
戸張 元宏 (小林製薬株)	萩生田 貴久美 (社会医療法人母恋日鋼記念病院)
服部 憲 (凸版印刷株)	稗田 展大 (太陽生命保険株)
深澤 朋子 (トレンダーズ株)	藤原 海人 (埼玉県)
牧野 真由子 (大日本印刷株)	松尾 涼子 (株日本能率協会コンサルティング)
真鍋 順子 (株リブセンス)	三浦 隆志 (株シースリー・ブレーン)
三宅 伸子 (株NTTデータ)	森下 真千子 (株星野リゾート)
森田 浩成 (株ポジション)	山口 真侑 (トレンダーズ株)
山崎 祐一郎 (株日商社)	山本 健一 (株セブン銀行)
梁 寛樹 (TOTO株)	

◇個人名、所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

猪狩 優 (PR関連会社)	岩渕 仁志 (各種団体)
浦井 正浩 (一般企業(その他の部署))	大島 久美 (一般企業(広報・PR関連部署))
大西 克之 (一般企業(広報・PR関連部署))	岡崎 裕美子 (一般企業(広報・PR関連部署))

荻野 毅（自治体・行政機関）	倉辺 喜之（一般企業(広報・PR関連部署)）
佐藤 さゆり（その他）	白鳥 文絵（一般企業(広報・PR関連部署)）
末永 亜希子（一般企業(広報・PR関連部署)）	中原 大輔（PR関連会社）
長見 綾子（一般企業(広報・PR関連部署)）	新見 朋子（一般企業(広報・PR関連部署)）
吉田 智子（一般企業(その他の部署)）	

◇所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

㈱インテグレート…女性1名	NEC…男性1名
NTTコムウェア㈱…女性1名	㈱オリコム…男性1名
共同ピーアール㈱…男性1名	㈱世界文化社…女性1名
都市再生機構…男性1名	㈱野村総合研究所…女性1名
ピジョン㈱…女性1名	ユニプレス㈱…女性1名
ワールドピーアール㈱…女性1名	

◇所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

PR関連会社…女性1名  
 一般企業(広報・PR関連部署)…男性3名 女性8名  
 一般企業(その他の部署)…男性1名 女性1名  
 各種団体…女性1名  
 自治体・行政機関…女性1名

※上記PRプランナーの皆様には、事前に掲載の承諾を得ております。

## 第5回「広報活動研究会」開催報告 京王電鉄株式会社 訪問 および 井の頭線 富士見ヶ丘車両基地 訪問見学研修

企業部会

“花の香を 風のたよりに たぐへてぞ 鶯さそ ふしるべにはやる”  
の一句が聞こえてきそうな桜満開の穏やかな金曜日の午後、今回の企業活動研究会は、井の頭線 富士見ヶ丘駅を神田川沿いに進んだ「京王電鉄 富士見ヶ丘車両基地」にて開催されました。車両基地に入り、最初に目にするのは所狭しと並んだ色とりどりの井の頭線。今回は京王電鉄の取り組みの地域との共生プログラムを学び、実際の車両点検を見学します。井の頭線は渋谷と吉祥寺の12.7kmを20分弱で結ぶ5両編成の鉄道で、元は帝都電鉄の路線。他の京王線では線路は標準軌ですが、井の頭線では狭軌なのが特長。

まず京王電鉄グループ、および京王井の頭線について、京王グループの理念や、地域との共生プログラムの目的から、考え方、共生プログラムの事業、C-S-R活動の具体的な取り組みを、京王電鉄 広報部長 武井 良仁氏より伺いました。印象深かったことは、沿線価値向上を目的とした信頼のトップブランドを目指した取り組みとして、地域環境保全に積極的に取り組みや、地域社会・行政・株主・社員すべてのステークホルダーとの誠実な関係づくり、さらに、沿線の顧客にとって暮らしやすい街づくりの一環として保育所の運営がありました。また、共生プログラムの1つに「高尾山峰中修行」があり、こちらは高尾山薬王院で子供たちが座禅、写経、法話、水行など普段体験できない1泊2日の体験修行を通して、新しい友達づくりや、自然に触れて心に残る思い出をつくるのが目的ですが、過去に武井氏も水行をされたとのこと。その水の冷たさを語られた際、思わず同情してしまいました。

講義はつづき、井の頭線の取り組みについて、車両電気部 梁瀬 哲夫氏よりお話を伺いました。井の頭線(京王線を含む)では、バリアフリーを目的に、駅と車両の両方から取り組まれています。まず駅バリアフリーとして、エレベーター、だれでもトイレ、幅広改札機、触知案内図、音声音響案内、階段の明度、点字ブロックと内方線つき点状ブロック、旅客案内ディスプレイ、行き先案内板の整備が進んでおり、車両のバリアフリーとしては、外装面の大型フルカラーLED行先表示器、大きくて見やすい車内液晶画面、車いす用の渡り板、ホームと車両の段差縮小、車両内車いすスペース、ドア上の点字による表記、ドアチャイム音、おもいやりゾーンの整備があります。

また、さらなる安全性・サービスの向上として、全車ATC(自動列車制御装置)の整備やホームドアの設置を推進しています。ちなみにATCは京王線全線ではすでに2011年10月に導入完了(京王相模原線は2009年度に導入済み)し、井の頭線は2012年度の導入に向け工事を継続しています。

京王線および相模原線では、調布駅付近の連続立体交差事業として2012年度に鉄道の地下化切り替えを予定しています。これにより柴崎駅～西調布駅までにある踏切18カ所を除去することとなります。

さらなる安全性・サービスの向上

**調布駅付近連続立体交差事業**

トンネルや駅の躯体構築をほぼ全て完了し、各駅の建築・電気・空調工事などを推進。  
[2012年度 鉄道の地下化切替を予定]

<凡例>  
— : 上り線  
— : 下り線

管塚以西の鉄道立体化

・2011年5月に都市計画案および環境影響評価申請書説明会を実施。  
 ・事業主体である東京都とともに事業化に向け、都市計画および環境影響評価などの手続きも引き続き推進。



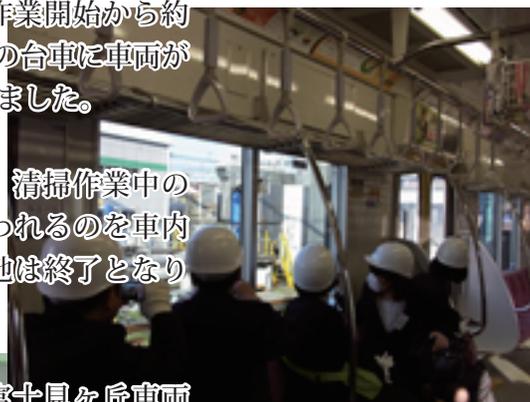
次に、いよいよ車両区に移動し、点検を終えた車体を、整備され新品同様になった台車に載せる作業を見学します。富士見ヶ丘車両基地内の検車区は、一般的な検車区と比べるとやや小さめの施設ですが、施設内の機材は新しく、またきれいに整頓されているため、検車区の中に入ると十分な広さがあることがわかります。



載せ替え作業は、天井に設置された 28 トンクレーンで車両の前後 2カ所をつかみ、非常にゆっくりした速度で車両を持ち上げます。次に台車の上まで横移動した後、静止させ、ゆっくりした速度で徐々に車両を下していきます。ある程度、車両と台車が接近したところで、責任者より「待て！」の指示が。そこから検査作業員が責任者に報告をして、責任者がクレーンオペレーターに指示を出します。「渋谷下げ～！」、「吉祥寺下げ～！」構内では、車両を前後で呼ぶのではなく、進行方向となる「渋谷」、「吉祥寺」の名称で指示が出されます。今回の載せ替え作業となる車両はパンタグラフ付の動力車なので、接続にはさらに慎重を期します。作業開始から約 10 分後、渋谷側、吉祥寺側両方の台車に車両がガッチリと固定され、終了となりました。



続いて、外装清掃作業として、清掃作業中の列車に乗り、列車が洗車機で洗われるのを車内から見学し、富士見ヶ丘車両基地は終了となりました。



最後となりましたが、今回、富士見ヶ丘車両基地にご尽力いただきました京王電鉄 広報部の皆様、車両区の皆様、また、企業部会幹事の皆様、本当にありがとうございました。深くお礼申し上げます。



企業部会では、年に数回、企業の広報活動の研究を目的に、企業の広報の現場を見学し、業務に役立てていく取り組みをしております。皆様の今後のご参加をお待ちしております。

**会 員 限 定****2011 年度「PR業カンファレンス」開催報告**

P R 業 部 会

2012年3月15日、2011年度「PR業カンファレンス」が㈱アサツー ディ・ケイ 11Fラウンジにて行われました。

「PR業カンファレンス」はPR業部会の主催でPR会社・PR関連会社会員が年に一度情報交換と懇親を深める目的で企画されました。昨年も予定されていましたが、実施直前の東日本大震災により残念ながら中止となり、今年度が初の開催となりました。

当日は期末にもかかわらず、森理事長、石松副理事長をはじめ、PR業部会メンバー、会員各社から44名が参加しました。

大石部会長から2011年度の活動報告、また2012年度の活動計画の中で「PR業近未来予測研究会」についての活動説明後、特別講演としてブルーカレントジャパン㈱ 代表取締役 本田 哲也氏をお迎えし『2012年戦略PR考～「空気づくり」のこれまでとこれから～』をテーマに講演をしていただきました。

**第20回PRスキル研究会****「メディア露出調査と広報成果の関連性を考える」****講師:㈱内外切抜通信社 営業部長 前田 裕伸氏**

P R 業 部 会

第20回PRスキル研究会は4月12日(木)会場を㈱内外切抜通信社 B-1ホールに移して17:00～開催しました。講師は㈱内外切抜通信社 営業部長 前田 裕伸氏で、テーマは「メディア露出調査と広報成果の関連性を考える」。参加者は34名。

日本におけるクリッピングの歴史についての説明の後、同社の自主的な試みである、通常のメディア露出調査に加えて、アンケート調査でターゲットの意識調査を行なうことにより、露出による変化を把握し、広報活動を多角的に評価することの説明と結果の報告がありました。

セミナー後、同社のオフィスを見学する機会を得て、クリッピング業務の現場を見学し、あらためてクリッピングという専門業務の一端に触れてその認識を新たにしました。

## 会 員 限 定

### 第 138 回定例研究会

## 夜の経済報道をリードするWBSの制作方針 ～番組作りの実際と広報担当者へのアドバイス～

講師：テレビ東京 報道局ニュースセンター

WBSプロデューサー 大信田雅二氏

第 138 回定例研究会は 3 月 22 日（木）六本木アカデミーヒルズ 49 で開催しました。

講師にテレビ東京「ワールド・ビジネス・サテライト」プロデューサー 大信田雅二氏をお迎えし、テーマは「夜の経済報道をリードするWBSの制作方針 ～番組作りの実際と広報担当者へのアドバイス～」。有料参加者は 117 名。

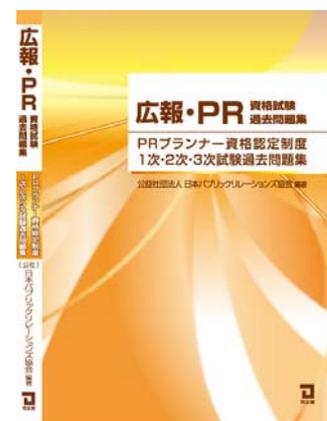
### 『広報・PR資格試験 過去問題集』の優待販売について

4 月号でもご案内しておりますが、日本PR協会では、「PRプランナー資格認定検定試験」（以下 PRプランナー試験）で実際に出題された問題を収録した『広報・PR資格試験 過去問題集～PRプランナー資格認定制度1次・2次・3次試験過去問題集』を、本年4月5日に刊行いたしております。

当協会では、会員向け優待として1部 1,300 円で頒布いたします（書店では、定価 1,500 円＋消費税 75 円）。ただし、別途送料がかかりますので、部数をまとめてお申込みいただくことをお勧めします。

購入のご希望がございましたら、事務局までお問い合わせください。

TEL 03-5413-6760



## ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング 2012年3月度

エレクトロニック・ライブラリーは、2012年3月度の「話題のキーワード・ランキング」を発表しました。

これは、3月に発行された新聞96紙・雑誌約100誌のうち、「ELNET」に登録されているキーワード約263万語のヒット数の増減を数値化した「ELトレンド指数」等をもとに「一般キーワード」と「企業キーワード」に分けて分析したものです。

「一般キーワード」と「企業キーワード」のTOP10は以下の通りです。

### ■ 2012年3月度 EL一般キーワード TOP10

順位	トレンド指数	キーワード	順位	トレンド指数	キーワード
1位	9.05	一体改革	6位	4.16	核安全保障サミット
2位	5.84	年金資産	7位	4.06	発射実験
3位	5.37	厚生年金基金	8位	4.00	大飯原子力発電所
4位	5.23	広域処理	9位	3.94	企業年金
5位	4.83	原子力規制庁	10位	3.77	ストレステスト

### ■ 2012年3月度 EL企業キーワード TOP10

順位	トレンド指数	キーワード	順位	トレンド指数	キーワード
1位	8.80	AIJ投資顧問	6位	1.73	ピーチアビエーション
2位	3.97	アイティーエム証券	7位	1.69	エアアジアジャパン
3位	2.49	エルピーダメモリ	8位	1.66	鴻海精密工業
4位	2.06	関西電力	9位	1.63	ジェットスター・ジャパン
5位	1.95	マイクロン・テクノロジー	10位	1.60	SUMCO

※ELNETホームページでは毎月の発表を週刊にバージョンアップした上で、「ELウィークリートrend」として毎週水曜日に発表しています。  
詳細は以下ご参照ください。

<http://www.elnet.co.jp/el/trend/index.html>

## ＜コラム 関西の風＞

## 大阪に誕生する知的創造拠点

(公社)日本パブリックリレーションズ協会  
関西支部 事務局長  
村田 貞博

J R、阪急、阪神、地下鉄の 7 路線が乗り入れ、1 日平均乗降客数約 250 万人を誇る西日本最大のターミナル、大阪・梅田。関西、大阪(伊丹)、神戸の 3 空港を抱え、国内・海外へのアクセスも 1 時間圏内という立地に、大規模都市開発プロジェクト「うめきた・グランフロント大阪」の建設が進んでいる。大阪に残された「最後の一等地」J R大阪駅北側に広がる貨物駅(コンテナヤード=約 24 ヘクタール)の再開発事業で、現在、そのうち 7 ヘクタールを先行開発中である。

この事業は A、B、C の 3 ブロックに 33~50 階建ての高層ビル 4 棟を建設、全体で 10 万人が利用する大規模な街づくりである。ブロック A、B はオフィス(述べ床面積約 23 万 7000 m<sup>2</sup>)と商業施設(約 8 万 m<sup>2</sup>)、外資系高級ホテルとサービスアパートメント(約 3 万 9000 m<sup>2</sup>)の 3 棟を建設。またブロック C は分譲住宅(高層マンション=約 6 万 5000 m<sup>2</sup>)の構成で、街開きは来年春の予定だ。

このグランフロントの中核施設が先端技術の発信、企業や研究者の交流を目的とした「ナレッジキャピタル」である。ブロック B のビル 2 棟の地下 2 階から 13 階に入居、延べ床面積は 8 万 8200 m<sup>2</sup>。研究者やクリエイターらが集う会員制サロン「ナレッジサロン」、新製品をお披露目する「ナレッジシアター」(約 380 席)、最大 3000 人を収容できるコンベンションセンターなどを開設。とりわけ目玉施設が地下 1 階から 3 階を占める「ザ・ラボ」。企業や研究者の先端技術・や研究成果を出展する「すごラボ」、大人から子供まで未来技術を実地体験できる「世界一ラボ」、さらには旬の食材にこだわった“ノミネーション”フロア「カフェラボ+ステージ」などユニークな施設づくりを進めている。

運営会社、ナレッジキャピタル・マネジメントによれば、企業や大学、研究機関など約 40 社・団体の入居が内定済みという。主なテナントは独立行政法人・情報通信研究機構、東京大学大学院情報理工学系研究室、NTT、大日本印刷、積水ハウス、鴻池技術研究所、大手前学園で、淀川キリスト教病院といった異色の顔ぶれもあり、すでに 8 割強のフロアが埋まっている状況。また韓国やシンガポールの機関に対しても拠点進出を交渉中だ。

関西部会では 4 月 20 日、同施設の見学会を実施、32 名が参加した。隣接の梅田スカイビルから開発地域を展望、また CG 技術を駆使した DVD 映像紹介に続いて模型を交えた施設の紹介、説明を受けた。メンバーからは「大阪にも感性と先端技術・研究の創造拠点が誕生」との感想が洩れた。同地区では関西空港と 40 分で直結する J R 新地下駅も建設予定で、関西の知的新名所となるのは間違いなさそうだ。

なお関西部会では、奥谷安規子事務局長が退任、4 月から村田貞博が就任しています。これからよろしくお願ひ致します。

国際委員会委員からの国際的な視野でグローバルな意見・評論・読み物を2ヵ月に1回（年6回程度）掲載いたします。

## 外務省が開催「東日本大震災とメディアの役割 — 内外メディアの視点」

国際委員会 委員長  
塚本 和子

### 1. 概要

平成24年3月23日、外務省は「東日本大震災とメディアの役割 — 内外メディアの視点」というテーマの下、「国際ジャーナリスト会議2012」を開催した。会議の議長を務めた、毎日新聞社論説室 専門編集委員の布施 広氏は、「震災後の日本が抱える問題は多い。だが、このような時こそ、メディアの存在が問われる。正しい情報を伝えるだけでなく、正しい方向に進むための議論をリードしていくのがメディアの役割だと信じている」と、討議を総括した。

※ 以下の内容は外務省のメールマガジンから抜粋しました。  
なお、内容に関しましては、外務省から許可を得ております。

### 第1セッション「国内外の震災報道の検証」

#### 出石 直氏（NHK）

日本唯一の公共放送であるNHKは、全国に460台のロボットカメラ、14機のヘリを配備しており、災害報道体制は、機材、人員、予算等、世界でも例外的な規模である。しかしながら、我々の報道には限界があり多くの反省も残った。何より多くの人々の命を救えなかったし、原発の事態をなかなか把握できず正確な情報を視聴者に提供できなかった。今回の災害は、高度情報社会で起きた初めての巨大災害であり、既存メディアとソーシャルメディアの連携や役割分担、政府や企業の情報発信のあり方なども課題となった。こうした教訓は国境を越えて共有されるべきだ。

#### 小笠原 裕氏（岩手日報）

被災地元メディアとして、地震発生直後の停電と交通混乱の中「とにかく新聞を出す」という使命感で動き、災害協定を結ぶ秋田、青森の新聞社の協力により、翌日避難所に本紙を届けることができた。次に、避難所で被災者の写真や情報を収集して避難者名簿を作成、本紙掲載に加えて他紙ウェブサイトにも掲載したところ、膨大な反響があり、活字メディアの大切さがかつてないほど感じた。被災地の復興はこれからが本番、報道も新たな決意を持って臨む。

#### 蘇 琦氏（中国）

災害報道においては、政府に対してあまりに協力的、或いは批判的であることを避け、中間点を見出すように努力すべきだ。但し政府の側面ばかり強調すると被災者に「忘れられている」との印象を与えてしまう。むしろ被災地の生活、人々の助け合い、復興の進み具合なども重視すべきだ。第二には、異なる視点で報道すること。外国メディアの報道が異なるのは、彼らのメンタリティ、文脈で報道するからだ。例えば、被災地ではいまだがれき処理が行われている。何事も早く進む中国からみれば、がれきから家族の品物をさがす、関係各所でコンセンサスをとる物事が進むことなど非常にわかりにくい。また、新幹線の耐震性を強調するよりも、もっと放射能についての情報がほしいと考える。

### ロマン・ブディヤント氏（インドネシア）

今回の震災は当国でもCNN等を通じて非常によく報道され、津波や原発事故の映像は世界の終末を想起させた。日本のメディア、政府、東電はこの危機に対応する術がなかったが、岩手日報や東海新報は現場で最大限努力し、地元の人々の友として希望を届けた。当ジャワポス紙も震災後二週間震災をトップニュースで扱い、自らのアチェ地震の辛い記憶に今回の原発事故も加わって大きく報道した。インドネシアでは生の状況を伝えることを第一に考えるが、日本メディアの報道の仕方から「遺体を見せない」「希望を広める」という教訓を得た。日本とインドネシアは同じ火山帯に位置する災害多発国として、より賢明な情報発信を各国メディアと共有したい。

### モハメド・アブドゥラティーフ・ショケール氏（カタール）

原発事故は地震・津波とは別の問題であり、メディア、政府から出される情報が錯綜、混乱し、視聴者に不信感が募った。特に、原発事故について理解するための科学的な知識を持ち合わせていない一般国民に対し、分かりやすく事故を解説する情報が不足していた。外国メディアも迷い、当社は東京の放射能レベルや水の汚染等の問題よりも、人々がどう助け合っているかの人道的側面に焦点をあてた。当社は去年と同じ取材チームを派遣し、人々の生活や気持ちの変化について報道しようとアプローチしたが正しかった。日本が世界に対して正確にこの経験を共有してほしいと願うなら、できるだけ正確で多くの情報を迅速に英語で提供してほしい。今回の震災に関しては英語の資料が少なかった。

### キョン・ラー氏（米国）

地震発生直後、東京から電話等でライブ放送を行った。同時に、視聴者が自分の携帯端末で撮影した映像「i-report」がCNN.COMに怒涛のように送られてきた。その中から実際に東京でマンションが揺れている映像等を放送した。今回「i-report」の投稿数は史上最高を達成、また、取材人員もこれまでにない数を投入した。これらは日本の経済力の重要性を物語っている。震災後の政府と東電からの情報発信については、情報が遅い、錯綜する、或いは東電から100ページもの大部の科学的なレポートのみが提供されるといったような問題が存在した。日本からの情報発信を担う特派員として、このような取材現場での焦燥感が募ったが、「文化の衝突」のような状況で最善を尽くし、公平であろうとした。素人が「原発」に取り組むのは難しかったが、この津波・原発という災害取材から得た多くの教訓をグローバルに活かしたい。

## 第2セッション「復興とメディア」

### ウルリケ・シェファー氏（ドイツ）

ドイツでは、日本での事故を受け、10年以内の脱原発を決めた。ドイツでの報道は、震災当日は地震、津波関連だったが、後に原発中心になった。脱原発は人口の80%に支持されているが、福島の事故だけではなく、長期の議論の結果でもある。独メディアは、日本、東電の危機管理、特に情報発信が不十分で、日本国民ですら放射能のリスクについて十分な情報を提供されなかったと伝えた。また、ドイツの専門家が、ある紙面で、東電による福島原発でのバックアップやメンテナンスの不備、政府の監督不十分を指摘したが、こうしたことが民主国家で起きたことにドイツ国民は衝撃を受けた。自分は、(1)原発政策の決定に関し日本国内で責任の押し付け合いがある、(2)政府関係者は将来の政策、復興について合意形成が必要だと言うが、合意形成の方法については、これまで無視してきたのか、正確な答えを持っていない、と感じている。

### プリシラ・ベバラジュ氏（インド）

原発事故のために、インドでは、震災関連の報道が地方紙においても何日も大きく取り上げられ、「福島」も一気に全国的に有名になった。インドでは、ここ数カ月、フランスやロシア製の原発が建設されている各地で、逮捕者を出すほどの大規模な反対デモが起こっている。インドでは、事故前の日本同様、原子力の安全規制機関と推進機関が同じ省庁に属しており、インドの原子力関係者は日本の経験から学ぶべき。インドでは中央政府が情報を管理しようとする傾向があるのだが、日本でも、地元レベルでの情報、安全政策の不足等の事情があったのではないか。原子力の是非についてはインドでも議論があるが、メリットだけでなく、コスト、リスク、責任の所在も踏まえて考える必要がある。

### イ・ソング氏（韓国）

福島事故は、天災というより人災。事故の責任者は十分な調査の上、制裁を受けるべきだと考える。迅速な復興のため、地方政府での被災企業向け支援の手続きはより簡略化されるべき。社会的な統合も重要。日本では、地域間の対立が激化し、社会の繋がりが弱くなっていると言われるが、政府は率先してこれらの問題を解決すべき。エネルギー政策では、日本の首相は原発依存度を下げるとしているが、省エネ、持続可能なエネルギー開発への投資が必要。先進国が原発を縮小するのは難しい。危険性は高いが、原発との共存を考えなければならないだろう。

### ベネディクト・ブローガン氏（英国）

震災時には、我が社のネット記事閲覧が世界中で増えた。我が社は、地震発生から24時間以内にスタッフをロンドン、中国から日本へ派遣し、在京特派員をサポートさせた。2週間大々的に報道したが、震災のニュースは、英国でも強い共感をもって受け止められた。ここ一週間も、各報道機関が、がれき処理の遅れや指導者の不在を含む復興の進捗状況を一面で伝えている。ジャーナリストは、何よりも読者に対し信頼に足るものを提供し、権力について子細に追及する必要がある。メディア自身の説明責任、読者との対話も重要だ。また、インターネット、ソーシャルメディアの台頭によりスピーディな情報発信および情報発信への市民参加が可能となり、メディアを取り巻く環境は激変している。私たち「古いメディア」もこうした変革を一方向的に押し付けられるのではなく、それを率いていくことが必要。

## 2. 議長総括

大震災により、日本と世界は大きく変わろうとしているが、メディアの役割の重さは変わらない。震災に伴う日本の危機は続くが、だからこそ、現状を厳しく検証し、未来に活かしていく必要がある。東北は立ち直りつつあるが、がれき処理や絆の弱体化、原発事故の最終的な解決、更には政治における不安など、日本が抱える問題は多い。だが、このような時こそ、メディアの存在が問われる。正しい情報を伝えるだけでなく、正しい方向に進むための議論をリードしていくのがメディアの役割だと信じている。

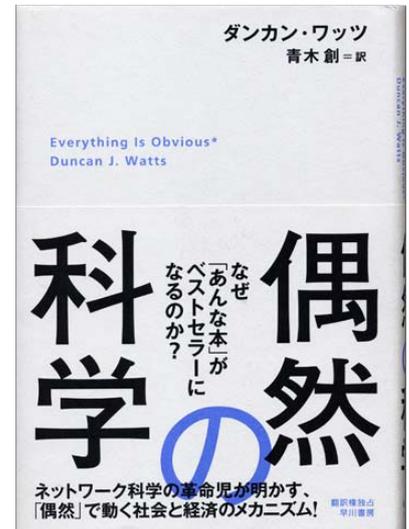
## 『偶然の科学』

ダンカン・ワッツ著 青木 創訳 早川書房  
2,200円＋税

私たちは業務上、あるいは日常無意識のうちに様々なことを分析し、今後を予測しようとしています。アップルはなぜ今日の成功をつかんだのか、ジョブズのお手本だったソニーはなぜ凋落の道歩んでいるのか…原因を探り、明日の自分の成功をつかむための参考にしようします。事実、世の中には様々な分析本、ビジネス指南書があふれています。しかし、筆者は歴史は繰り返さない、つまり歴史（過去）から教訓を得ることはできない、と一刀両断します。

世界中のだれとでも6人目にはつながる「スモールワールド現象」を唱えて注目された社会学者の筆者は、ネットワークを使った大規模な実験を踏まえて、様々な現象が私たちが欲しが「セオリー」よりも「偶然」に影響されているということを証明します。

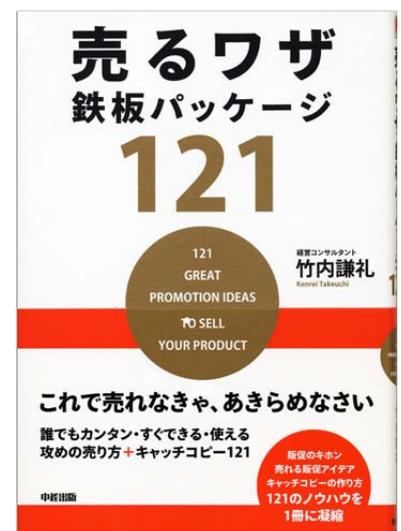
安直な分析にお気楽な予測をしまいがち私たちの「常識」を覆し、モノゴトを見極める新しい「視点」を与えてくれる書と言えます。



## 『売るワザ 鉄板パッケージ 121』

竹内 謙礼 著 中経出版  
1,500円＋税

小さな文章でも、イザ書き始めようという時ちょっとした「助走時間」が欲しいのではないのでしょうか。少し気の利いた展開にしたいのだけれど、何か「つかみ」が欲しいのだけれど、アイデアが浮かばない時、その「助走時間」にパラパラと頁をめくるのうってつけなのが本書です。居並ぶ121のキャッチコピーは、はっきり言ってベタ、陳腐なコピーのオンパレードなのですが、ここまで拾うか！という小ワザの数々も一緒に並んでいて、ヒントが満載。表紙には「売れる販促企画・キャッチコピーの作り方」とあって、「広報」とはひと言も書いてありませんが、ちょっと経験のあるPRパーソンなら参考にできるワード、あるいはアプローチ法が見つかるはずで。



広報委員会 委員  
多羅尾 智子  
(株一粒舎)

## ■ 会員便り

### 電通の横断プロジェクト 電通ソーシャルメディアラボが スティーブン・D・ラパポート著の 「リッスン・ファースト！ ～ソーシャルリスニングの教科書～」を翻訳・監修

本書は、現在のマーケティングの貴重なリソースであり、日進月歩で進化する「ソーシャルリスニング」(傾聴)に関して、最先端の米国広告業界の優れた見識を結集して、広告マーケティングや製品開発におけるリスニングなどの豊富な事例を挙げて詳細に解説しています。

日本語版においては、日本のソーシャルメディア環境も踏まえ、日本の有識者によるコラム、座談会など、独自のコンテンツが加えられています。

共感を呼ぶメッセージの開発、商品・サービスの改善、レピュテーション(評判)のマネジメントなど、戦略PRの視点からも、役に立つ知見が満載されております。

マーケターはもとより、経営、事業戦略、製品開発者から販売担当者まで、すべての企業活動において「ソーシャルメディア時代の行動論」となりうる一冊となっております。



#### <書籍データ>

- 【タイトル】 「リッスン・ファースト！ ソーシャルリスニングの教科書」
- 【形態】 単行本 (A5 ソフトカバー) : 352 ページ
- 【出版社】 翔泳社
- 【著者】 スティーブン・D・ラパポート (著)  
電通ソーシャルメディアラボ (翻訳)
- 【発刊日】 2012年4月13日
- 【価格】 2,200円 (税別)

※本書は全国の書店およびオンラインショップにて販売しております。

翔泳社オンラインショップ

<http://books.shoeisha.co.jp/>

※当該書籍「リッスン・ファースト！ ソーシャルリスニングの教科書」は協会事務局にございます。お貸出しできますので、ご興味のある方はご一報ください。

## 書籍「リッスン・ファースト！」より

座談会「ソーシャルメディアPR戦略について」〈一部抜粋〉

〈パネリスト〉（敬称略）

徳力基彦（㈱アジャイルメディア・ネットワーク株式会社 代表取締役社長）

池田紀行（㈱トライバルメディアハウス 代表取締役社長）

斉藤 徹（㈱ループス・コミュニケーションズ 代表取締役社長）

〈モデレーター〉（敬称略）

細川一成（㈱ 電通パブリックリレーションズ コンサルタント）

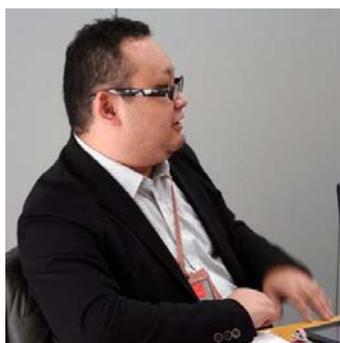
実は、監視目的であってもリスニングをしたことによって、ポジティブな声が多いことに気が付き、価値観が変わるケースが数多く出てきています。日本は反対派の勢力が強かったわけですが、徐々に反対派が肯定派に変わっているのはおもしろい点です。

（徳力）



（セミナー講演する際にTwitterでブランド名を）検索すると、いままきにユーザーが交わしている会話がでてくるじゃないですか。そうすると、みんな興味深く見てくれます。だって、1分前に自社の商材についてツイートされているんですから。悪いことなんてそんなに書かれているわけではなく、「キャンペーンに参加したよ」「この前食べたけど、美味しいよね」といったツイートを実際に見てもらおうわけです。（池田）

経営者層は、問題が起きた有事の際にソーシャルメディアを見る機会が多いわけですから、恐れているわけです。でもそれは無知故の恐怖で、ソーシャルリスニングだとまず話を「聞く」だけで対話しなくてもいいわけですから、恐れるようなことは起きないですよ。そういった意味でも、リスニングから先にやるというのはありですね。（斉藤）



巨大なデータを解釈するだけで用が足りて、人間の勘や経験知が通用しなくなるという考え方が生まれてくるかもしれません。でも、最終的にはそれを使う人材が大事になる気がします。（細川）

韓国の代表的な総合PRコンサルティング会社 KPR & ASSOCIATES, INC. が韓国の大学生の間で一番人気のPR企業に選ばれました。個人賛助会員BであるKPRのChair Kay H. Imm氏からこれに関して以下の文章をいただきましたので、掲載させていただきます。

## KPR、大学生が選んだ「就職志望PR企業」第一位

韓国の大学PRサークル連合体である韓国大学生PR連合会（KUPRA）は最近開かれた「第3回韓国大学生PRフェスティバル・アワード」の就職志望PR企業調査でKPRがトップだったと発表しました。

選定理由は、「KPRは毎年『KPR 大学生PRアイデア公募展』を開催して、PR産業に対する大学生の興味・関心を高め、未来のPR人の質的向上と基盤強化及び韓国PR産業の発展を目指して先頭に立ってきた」ということです。KPRは2004年から当該公募展を開催して、若くしてクリエイティブなPR人材を発掘、育成して来ていますが、それが評価されたものです。

1989年から今年創立24周年を迎えたKPRは約125人のPR専門家が様々な分野のクライアントのために消費財、IT、金融、企業PRなど伝統的なPRを始め、スポーツ・マーケティング、公共分野PR、イシュー危機管理、ヘルスケアPR、オンラインPR、写真映像PRまで、専門PRチームがオーダーメイド サービスを提供しています。

また、CSR専門チームを構成し、社会貢献活動を通じて市場を作り出す持続的発展の可能性を模索する企業と機関のクライアントに特化したサービス提供、3月には韓国のPR業界初の「ソーシャル・コミュニケーション研究所」（Social Communication Research Lab）を発足、新しいコミュニケーション手段として浮かび上がっている企業のソーシャルメディア及びSNS環境に基づいたリサーチと産学共同研究を始めることになりました。

クライアントのニーズに合致するKPRの戦略的なコンサルティングと実行プログラムは国内はもちろん海外でも高い評価を受けてきました。

1993年、国際PR協会（IPRA）の「ゴールデン・ワールド・アワード」で金賞を受賞し、PRコミュニケーション分野の世界的な調査機関であるホームズ・レポート（The Holmes Report）で「今年の韓国のPR企業（Korean Consultancy of the Year）」に選定されるなど9年連続、様々なPR賞を受賞しています。

KPRは、戦略的なコンサルティング能力と実行ノウハウを世界に認められており、韓国のPR産業発展と産学共同に重要な役割を果たしております。

## PRSJ in Media

### ● 4月16日（月） 『電通報』

当協会が編著し4月5日に刊行した「広報・PR資格試験 参考問題集」、「改訂版 広報・PR概論」について、電通報で取り上げられました。

記事中には、「広報・PR資格試験 参考問題集」、「改訂版 広報・PR概論」の判型、ページ数、価格、問合せ先が紹介されています。

### ● 4月26日（月） 『新聞改造』

当協会が4月1日より、社団法人から公益社団法人に移行したことが取り上げられています。

#### 編集担当より

#### 会員みなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

“マーケティング・テクノロジーフェア 2012 in 大阪”のご案内を以下のとおりいただきましたので、会員の皆さまにお知らせいたします。



## マーケティング・テクノロジーフェア 2012 in 大阪 2012年6月、待望の日本初開催！

### ソーシャルメディア業界を牽引する有力ベンダーをはじめ、グーグル社が次世代のマーケティングテクノロジーを語る！

世界各国でトレードショーを企画・主催しているUBMグループがイギリス、中国など世界数ヶ国で開催している最新のマーケティングテクノロジーが集結する一大イベント「マーケティング・テクノロジーフェア」がいよいよ6月、大阪にて日本での初開催を迎える。

会期中はセミナーを中心にデータベース、CRM、デジタル3つのプロダクトカテゴリーを設定して、業界の有力ベンダーによるソリューションや最新トレンドの紹介からユーザー企業による自社の取り組みなどが発表される。特に注目されるのは、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディアの取り組み、ウェブサイトを活用した次世代のマーケティング技術などの動向が挙げられる。

▼▼▼オフィシャルサイト▼▼▼

<http://www.tfm-japan.com/>

### ◎開催概要

名 称： マーケティング・テクノロジーフェア 2012 in 大阪  
       [同時開催] コールセンター/CRM デモ&コンファレンス 2012 in 大阪 (第5回)  
       [合同開催] ネット&モバイル通販ソリューションフェア 2012 in 大阪 (第2回)  
 会 期： 2012年6月13日(水)・14日(木)  
 会 場： [展示会]マイドームおおさか、[特別講演・セミナー]大阪商工会議所  
 主 催： リックテレコム 月刊「コンピューターテレフォニー、UBM ジャパン」

### ■開催プログラム

展示会、特別講演、セミナー

### ■入場方法

[展示会] 無料 (WEBサイトによる事前登録か招待券の持参)  
 [特別講演・セミナー] 無料 (WEBサイトからの事前登録制)

### ◎対象製品カテゴリー

#### ■デジタル

ソーシャルメディア、モバイルマーケティング、WEB分析、クチコミマーケティング、SEO、他

#### ■データベース

BI (ビジネスインテリジェンス)、マーケティングアナリティクス、データマイニング、データマネジメント、データベース構築、ドキュメント管理、他

## ■ CRM

顧客管理、顧客分析、SFA/SFO、カスタマーエクスペリエンス、カスタマーインテリジェンス、他

## ◎ 特別講演

## ■ 6月13日

[M-1] ソーシャルメディア時代のサントリーのコーポレートWEB戦略

<講演>

サントリーホールディングス(株) 広報部 デジタルコミュニケーション開発部長 坂井 康文氏

<コーディネーター>

(株)メンバーズ 執行役員 原 裕氏

## ■ 6月14日

[M-7] 次世代のデジタルマーケティングテクノロジー (仮題)

<講演>

グーグル(株)

[M-8] 【中国市場】～世界最大級の情報配信企業が語る！～日本企業の中国市場進出するために何をすべきか！？  
企業&製品のブランディングからマーケティング戦略まで

<講演>

PR Newswire Japan マルチメディア シニアマネージャー ローザ・ヤム氏

[M-9] ソーシャルメディア白書セミナー

<講演>

(株)トライバルメディアハウス

## ◎ 来場対象

経営から広報、マーケティング、営業企画まで様々な部署に所属する方に役立つ情報が満載！

- 経営、経営企画担当の方
- 企業の総務、広報・PRに携わっている方
- 企業・製品の広告・宣伝に携わっている方
- 製品のマーケティングに携わっている方
- ソーシャルメディアの企画、構築、運用に携わっている方
- データベースの構築、運用に携わっている方

<本件に関するお問い合わせ先>  
マーケティング・テクノロジーフェア運営事務局  
(UBMジャパン(株)内)  
TEL : 03-5296-1020  
Email : [info@tfm-japan.com](mailto:info@tfm-japan.com)

# 広報PRアカデミー2012 講座概要

コース	コース目標	対象者	講座名	講座概要	開催時期	講座構成	期間	定員	
基礎コース	従来、初級・入門編として実施していた座学の集中カリキュラム	PR会社や広報セクション等に入社、配属された新任もしくは経験の浅い広報・PR業務の担当者。広報・PRを基礎から学びたい方	広報・PR基礎講座	企業の新任広報担当者、PR会社等の広報業務従事者に必要な基本的な知識、スキルを3日間で習得する。	4月	[第1日] ・パブリックリレーションズの基礎 (90分) ・広報・PR実務と計画立案の基本 (90分) ・コーポレート・コミュニケーションズと企業における広報・PR活動の実際 (90分) ・インターネット・コミュニケーションズの実際 (90分) ・広報・PRパーソンの心構えと自己啓発 (90分) [第2日] ・PR会社の役割と仕事 (90分) ・広報・PRの倫理と法規(著作権等) (90分) ・ニュースリリースの基本作成実習 (240分) [第3日] ・新聞、テレビ、雑誌等のメディア特性とメディアリレーションズ (90分) ・ネットの特性と広報における活用 (90分) ・メディアリレーションズの基本実習(「実践メディアリレーションズ」) (240分)	全日講座/3日間	60名	
			ソーシャルメディア基礎講座 「今さら聞けないネットPR」	Twitter、mixi、Facebookの最も基本的な使い方を学ぶ。会員限定。	5月	・広報・PRにおけるソーシャルメディア活用概論(60分) ・Twitter、Facebook等の操作実習(120分)	180分	10名	
専門・応用コース	従来、中級・上級編として実施していた座学及び演習付カリキュラム	PRアワード受賞プロジェクトに興味のある広報・PR関係者	[事例研究]広報・PRプロジェクト最新事例セミナー ―「PRアワードグランプリ表彰企業の取組みに学ぶ―	・「PRアワード2011」のグランプリ、4部門最優秀賞を2回に分けて紹介し、プロジェクト事例の解説し、企画の考え方について学ぶ。	5月・6月	・第1回 PRアワード趣旨/MC部門/イノベーション部門 ・第2回 GP/CC部門/ソーシャル部門	開催時間は検討/2日間	150名	
		実務スキルの向上に意欲のある広報・PR関係者	広報・PR実践スキルアップコース	ニュースリリース活用講座 ―ネット時代に対応したニュースリリースの活用― マーケティングPR強化講座 ―IMCとソーシャルメディアの活用― クライシスコミュニケーション強化講座 ―緊急記者会見と危機対応のポイント―	ニュースリリースの概念や基本的な作成法、メディアの種別や特性を学び、ネットとも連動する広報ツールとしてニュースリリースの効果的な活用方法を講義と演習を通じて習得する。 マーケティングPRの概念やソーシャルメディアをはじめとするさまざまなメディアを効果的に活用する活動計画の立案法を、講義と演習を通じて習得する。 緊急記者会見のシミュレーショントレーニングの経験を通じて、企業や団体の危機的事態における心構え、マスメディアへの対応のポイントについて習得する。	9月	講義と演習(240分) 3回一括受講者に対してはパッケージ価格として10%引きとする	240分/1回 240分/1回 240分/1回	60名 60名 60名
		広報・PRにおけるソーシャルメディアの活用に興味のある方	ソーシャルメディア実践講座	実際に企業や団体の広報、マーケティングの分野で多様なソーシャルメディアを活用しているキーマンによるパネルディスカッションをおし、活用のポイントや留意すべき問題点について探っていく。	4月、5月、7月(6月交流会)	・パネルディスカッション(各120分) (6月に交流会を開催。第1部各社担当者のショートスピーチ、第2部懇親会で構成)	夜間 120分	150名	
		広報・PRにおける専門的な知識、スキルの習得に意欲があり、プロフェッショナルとして自らの実務能力の向上をめざす方	プロフェッショナル広報・PR実務シリーズ	コーポレート・コミュニケーションの概念と戦略・計画の立案	企業広報の基本となるコーポレートコミュニケーションの概念を企業の実例を交えて解説し、広報戦略や計画の立案のポイントについて習得する。	11月～2月	19:00～21:00	各60名	
				危機管理の心構えとクライシス・コミュニケーション推進のポイント	不祥事や事故、ネットにおける炎上や情報漏洩など、企業団体における危機的事態の原因、成功や失敗について実例を通じて解説し、広報・PR担当者が備えるべき心構えや対応のポイントを習得する。		17:00～21:00		
				マーケティング/ブランディングを基礎としたコミュニケーションの計画と実施	マーケティングPRのベースとなるマーケティングやブランディングの概念、考え方を解説し、演習をおとてコミュニケーション計画の立案や活動実施のポイントを習得する。		17:00～21:00		
				CSR、IRと連携した経営と広報・PR戦略の展開	企業価値の向上に不可欠となっているCSRやIRの企業経営における位置付けや機能を確認し、先進企業のケーススタディをおとて企業をとりまくステークホルダーへのコミュニケーションのポイントを習得する。		19:00～21:00		
				グローバル企業におけるグループ広報の実際とコミュニケーション戦略	グローバルにグループ展開している日本企業が行うコミュニケーション活動について、多様なケーススタディを通じてその戦略立案や計画推進のポイントを学ぶ。		19:00～21:00		
				企業広報におけるインターネット導入の実際と効果的な活用	マスメディアと共存する新しいメディアとしてWebやソーシャルメディアを企業広報にどのように位置付け、活用していくべきか、実例をおとてそのポイントを学ぶ。		19:00～21:00		
				広報・PR活動を評価する効果測定の実践と新技法	広報・PR活動の効果測定の実践と新しい傾向を実例を通して学び、どのように効果測定を実施し活用していくべきかそのポイントを学ぶ。		19:00～21:00		
PRプランナー試験対応コース	広報・PRに関する知識やスキルを習得させ、PRプランナー資格認定・検定制度試験を合格できる実力を育成する	広報・PR業務に興味を持ち、PRプランナー試験の合格をめざす方	1次試験対応講座	過去問題を活用し、模擬試験と解説で構成。全4回。	7月、1月	演習(120分)	各120分/週1回 4日間(夜間)	60名(会場受講者)	
			3次試験対応講座	ニュースリリース、広報・PR計画の立案作成(マーケティング)、広報・PR計画の立案作成(コーポレート)の3テーマを講義と演習でそれぞれ構成。全6回。	6月、12月	講義と演習(150分)	各150分/週1回 6日間(夜間)	60名(会場受講者)	

\*各講座の詳細につきましては、順次ホームページ (<http://event.prsj.or.jp>) で発表いたします。

\*カリキュラム及び講師については、変更する場合があります。予めご了承ください。